



千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

94.3.25 No. 3966

新小岩・佐倉・幕張・営業

94春闘 敢然とスト突入へ

ストの力をこころ固め 車輪の輪を拵げよう

324

動労千葉は、三・二四、連合の賃上げ放棄のストなし春闘を打ち破り、闘う春闘の再構築をかちとる意気込みで燃えて、貨物支部（新小岩、佐倉）を先頭に旅客支部の幕張、営業への強制配転者の指名ストを敢然と打ち抜いた。

四二、〇〇〇円獲得 力的に交渉

については、「物価上昇・公共料金値上げの中で、生活破壊が深刻化している現状を具体的に示し追っている。最後まで強く要求していく。」と決意を込めて報告した。

布施副委員長長・ 新賃金交渉の経過を報告

労働者の未来を決する 春闘へ！

支部は、貨物・旅客会社に対し、四二、〇〇〇円の要求を突き付け、三回にわたり、精力的に交渉を展開してきた。特に、要求額の根拠の突破口！

春闘の復権を

中野委員長あいつの(要旨)

長期不況・大失業下、労働者はいかに闘い、生きるかが問われている。われわれの九四春闘はこうしたものに応えるものとして、きわめて政治的意味を内包するものである。朝鮮情勢の一触即発的危機の中で、今春季闘争は、貨物・JR体制との闘いと反戦・政治闘争課題への重要な一歩である。

敵の春闘解体攻撃に対し、春闘の復権をかけ闘おう！日本がどこに向かおうとしているのか。その進路は労働者の双肩にかかっている。この間の闘いを確認し、全国の仲間と連帯し頑張ろう！

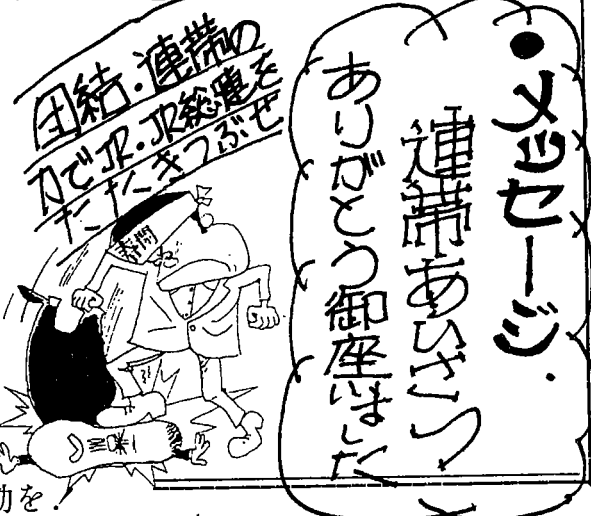
田中書記長は、今春闘、ストライキの四つの目標（賃上げ、中労委反動命令弾劾、反合、強制配転者の原職復帰）を鮮明に提起。特に、その中で「あらゆる面で、差別・格差攻撃の中で怒り、闘っている貨物支部の仲間の怒り、奮闘を我がものとして受けとめ、旅客・貨物・解雇者が一体となって、新たな反撃に打って出る。」ことを訴えた。

また「千葉支社では、この二カ月間で現職死亡者が五人も出ている。四千名余の企業で、これほどの死亡者が出ているなど、例を見ない。」と労働者の実態をひとつ一つアバギ、「許せない。」と言った声も飛びかった。

また、「今春闘は、こうしたJRの現状を打破し、今秋に目論んでいる。貨物の「輸送体系の抜本的改編」と称する大合理化との闘いを中心とする今秋の攻防戦の一弾の闘いである。加えて、危険な道を進む、細川・小沢政権との闘いであり、時代の逆流への闘争宣言である。」と言いつつ切った。

最後に「今春闘、力をさらに固め、一五周年を機に、胸をはって生きていける労働運動を皆で作ろう。」と訴えた。

スト拠点へ 新小岩・佐倉・幕張 支部長が力を 込めて特別報告



「新小岩・柴崎支部長」
貨物支部は、昨年に続いて春闘ストに決起した。貨物への格差・差別への怒りは、激しく燃えており闘いはこれからだ。われわれは、闘いの中で団結を固めてきた。この成果を踏まえ、今後とも闘う。

「佐倉・宮内支部長」
本日の第一波、第二波を全力で闘う決意・体制を固めた。「五〇億の赤字決算」を口実にあらゆる攻撃が強められている。動労千葉に誇りを感じているし、旅客の仲間と心をひとつにして闘っていく。

「幕張・石橋支部長」
一二〇名の全組合員が一人の落後者も出さず、ストに突入した。解雇者の悔しさを受けとめ、貨物の仲間と一体となって、奮闘しよう。春闘の力を今秋季、反合闘争へ！

三支部長からの堂々とした報告を受けた後、全支部、青年部、渡辺新特別執行委員の決意、高石、塩崎両清算事業団からの決意を受け、中野委員長が団結カンパロウで集会をしめくくった。

反合・連転保安確立！ 反戦・反核を担う労働運動を